

[研究分科会：政治分科会]

朝鮮戦争の国際史的意義：スターリンの安保戦略と朝鮮戦争

報告者 金 東吉（北京大学史学科）

- 構成：1. 中国共産党の勝利とスターリンの安保戦略（1949 年）
2. 1949 年 12 月の毛沢東のモスクワ訪問と中ソ同盟条約の改定協商
3. 米国のくさび戦略（Wedge strategy）
4. 毛沢東の中国東北地域からの全ソ連特殊権益の放棄要求
5. スターリンの朝鮮戦争承認と朝鮮戦争のソ連安保戦略での意義

概要：1950 年 6 月 25 日に勃発した朝鮮戦争は、米国とソ連を中心に資本主義陣営と社会主義陣営との間の最初の全面的な衝突だった。朝鮮戦争は 1947 年のマーシャル計画と共産情報局成立以来、漸増してきた両大陣営間の対峙は極大化した。

同時に朝鮮戦争は、勃発は両大陣営対立の最前線を欧州からアジアへ移動させた。まず、朝鮮戦争の勃発後、米国は国連を通じた即刻の介入と中国の台湾攻撃を防止するため、第 7 艦隊の台湾海峡配置を決定した。のみならず、インドシナでホーチミンと対峙中のフランスに代わり、ベトナムに対する軍事・経済的な支援の責任と共産党ゲリラと闘争中の東南アジア各国に対する軍事的支援を引き受けた。すなわち、朝鮮戦争勃発後、中国の東北地域と隣接した朝鮮半島と台湾海峡、そして中国南部のインドシナ半島で、米中間の先鋭化した対立戦線が形成された。

朝鮮戦争の勃発は、中国の既存政策にも甚大な影響を及ぼした。すなわち、経済再建のための重要政策は延期され、台湾解放計画も延期された。中国は朝鮮戦争勃発直後である 1950 年 7 月初め、北朝鮮と国境を隣接した東北地方に東北辺防軍の組織を決定して、必要な時は朝鮮戦争介入のための準備を開始した。

米国は 7 月初めから大規模の兵力を国連軍の名前で朝鮮の戦線へ派遣し始めたけれども、初期の北朝鮮軍との戦闘結果は惨憺たるものだった。7 月初め、最初に朝鮮の戦線へ派遣されたスミス（Smith）部隊は、戦闘開始と同時に大敗し、すぐに増員された師団級部隊の師団長が北朝鮮軍の捕虜として捕らえられる侮辱を味わった。米軍が現れるだけでも驚いて逃亡するだろうと見なしていた北朝鮮軍による米軍の引き続いた敗北は、米国だけでなく米国の軍事的保護下にいた西欧各国を驚愕させたし、資本主義陣営の士気を大きく低下させた。反面、東欧とアジアの社会主義各国ならびに共産党ゲリラ勢力は、大きく鼓舞された。

1950 年 8 月末、戦局は韓国の東南部と釜山を除外した全ての地域を北朝鮮軍が占領した。8 月 27 日にスターリンは、チェコスロバキアの指導者ゴットアルド（Clement Gottald）に送った電報で、朝鮮戦争により創り出された国際情勢について、非常な満足を表示した。彼は「米国の関心が欧州から極東地域へ移転した」と前提しつつ、「これは我々

に欧州社会主義を強化できる時間を与えた」と分析した。実際に朝鮮戦争勃発後、スターリンは欧州社会主義陣営の軍事力を大きく増強させた。

朝鮮戦争の勃発は、欧州で米国との競争で喘いでいたソ連に一息つくことができる機会を提供した。1947 年 6 月、米國務長官マーシャルは数百億ドルに達する金を欧州経済復興に注ぎ増やすという、いわゆる「マーシャル計画」を発表した。マーシャル計画はチェコ、ポーランドをはじめとした経済難に苦しんでいた欧州社会主義諸国家を動揺させた。これにソ連は、以前の欧州社会主義諸国家に対する搾取政策から援助政策へ転換しないわけにはいかなかった。

スターリンは欧州社会主義諸国家に対する統制強化のため、コミンフォルム（Cominform）を組織して、社会主義陣営の内部引き締めに乗り出した。1948 年に発生したベルリン危機は、两大陣営間の緊張を更に高潮させ、後に続く米英のベルリン空輸（Air Lift）は、米国の圧倒的経済力の優位をもう一度、確認させた。两大陣営間の緊張高潮は結局 1949 年夏、モスクワを訪問した中国共産党中央代表団の劉少奇を接見した場で、スターリンはこののち中国共産党がアジア陣営の革命支援の責任を引き受けてくれることを要求しながら、ソ連は欧州社会主義の強化に時間と資源を集中するだろうことを明かした。

1949 年 10 月 1 日、中華人民共和国の成立と 1950 年 2 月 14 日の「中ソ友好同盟互助条約」締結を契機に、米国は中国を含む全ての社会主義陣営との全面的、全方位的な対決に入り、このような米国の構想は 1950 年 4 月の文件 NSC-68 に具体化された。

正にこのような時期に、朝鮮で発生した朝鮮戦争への米国による即刻の介入は、米国の関心と資源をアジアへ向けさせた。これは、ソ連の世界安保戦略に大きく符合した。ソ連がロシア帝国以来、欧州をアジアより重視するのは、既によく知られた事実である。

1950 年 9 月 15 日の仁川上陸作戦後、朝鮮の戦局は急変し、9 月 28 日に国連軍はソウルを奪還して、10 月 1 日に韓国軍が 38 度線を突破して北へ進撃し、後に続いて国連軍も北進した。これは 10 月中旬、中国の朝鮮戦争参戦へ続いた。朝鮮戦争が中国と米国の戦争へ繋がり、ソ連は武器供給と空中掩護を担当した。中国の朝鮮戦争介入により、中ソ間の同盟体制は更に強化されたし、米国と中国の間の敵対感は一層さらに高潮した。中国による 5 次の戦役後、1951 年 3 月末に戦局は再び 38 度線を中心に熾烈な攻防戦が繰り返され、このような状況は 1953 年 7 月に休戦協定が達成される時まで続いた。

朝鮮戦争は結局、朝鮮の分断状況を解決できずに休戦となり、戦争期間に 3 百万名の人名が喪失し、1 千名以上の離散家族が発生して、南北朝鮮それぞれに拭い去ることができない憎悪感を植え付けたまま今日へ至っており、朝鮮半島は世界で最も軍事的緊張が高い地域として残っている。

朝鮮戦争により中国は、台湾解放の機会を取り逃がし、蒋介石は救援の機会を手に入れた。一方、朝鮮戦争は日本に戦争物資特需を提供したし、日本はこれを利用して飛躍的な経済跳躍の足かがりを作った。朝鮮戦争は米日関係を更に強化し、これは結局、米日安保条約の締結へ繋がった。1956 年の韓米相互防衛条約締結と合わせて、アジアにおける米国を軸とする米日、韓米の安保体制が成立して、今日に至っている。

朝鮮戦争は、北朝鮮に対する中国の影響力を強化させて結局、中朝同盟とソ朝同盟を促進して、米日・韓米同盟に対抗させて、東北アジアでこのような体制は冷戦期間に続いた。同時に朝鮮戦争は、中ソ同盟の強化とソ連に対する中国の安保依存性を高めた。1952

年にモスクワを訪問した周恩来首相は、1950 年 1 月に中ソ間で合意した旅順からのソ連軍の撤収延期を要請し、スターリンはこれに快く同意して、1950 年後半に旅順は中国に返ることができた。朝鮮戦争は、1970 年代初めから米中間の対話が始まり、中国が国連安保理の資格を回復したけれども、1950～70 年代を支配していた冷戦の枠組みを造るのに決定的な影響を及ぼした。